

大学生、帯広と東京の高校生の柳の有効活用の 共同研究―柳を通じてのふれあい木育交流―

明治大学 三浦佳大 横内由希子 杉並学院高等学校 本多真理 帯広農業高等学校 久田なつみ

研究の背景・目的

ヤナギは適応力や多様性などの魅力を持ちつつも、活用例が少ない樹木です。本研究は、ヤナギの有効利用を探るとともに、教育を通じた社会連携の促進を目的とします。高校と大学の縦連携、地域間交流（東京都と十勝郡）の横連携を通じて、ヤナギの有効活用を研究します。浦幌神社（背古宗敬宮司）や造園業「にわた」（森亮代表）、一社Pine Grace（土居拓務理事）らの協力を得て、枝伐りから製品開発、販売までの一連のプロセスを実施する新しい木育活動です。



研究の内容・成果

令和6年12月14日（土）に帯広農業高校と杉並学院高等学校の生徒、明治大学の学生が、ヤナギの枝を伐り、その活用に向けた議論をしました。高校生と大学生が協力し、地域資源を活用した製品開発に取り組むことで教育機関の連携を深めることができ、地域の伝統技術を学ぶことで文化的背景や自然環境への理解を深める機会ともなりました。

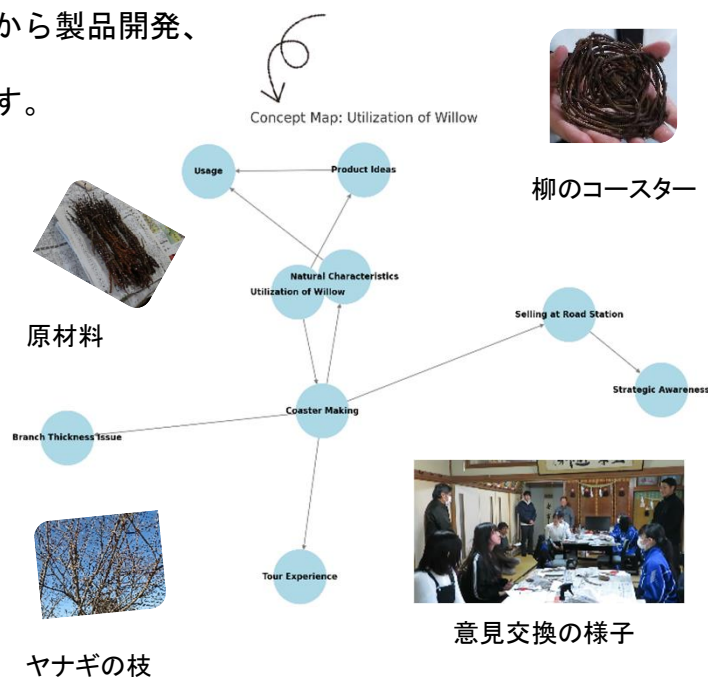


図 ヤナギ活用のコンセプトマッピング
注. 意見(自由記述)に基づき機械学習により作成。

今後の展開

今後は造園業「にわた」、（株）浦幌木炭（背古円代表）らとともにヤナギ製品を販売する計画です。そして、高大連携と地域間交流のモデルケースとして、ヤナギの活用プロジェクトをヨコ展開したいと考えています。また、ヤナギに限らず、アカエゾマツのような他の樹木にも対象を広げ、地域資源を活用した製品の開発を進めていきたいです。これにより、地域経済の活性化や持続可能性、環境保全にも寄与することを目指します。

コンセプトマッピングの解釈

- **コースター作りの評価:** 枝の太さに苦戦し、完成品の品質向上が課題。
- **販売 vs 体験ツアー:** 道の駅販売は完成度と集客力の向上が必要。体験ツアーは、木の伐採体験を通じ、親子層の関心を引きやすい。
- **製品案:** 柳の特性と製品案折れやすいが濡らすとしなやかになる特性を活かし、バスケット・鍋敷き・ゴミ箱を提案。
- **全体意見:** 屋内利用に適している。全体として、体験ツアーが有効な活用方法として示唆されている。